

# 畜産クラスター事業の実施状況

令和2年7月

北海道農政部生産振興局畜産振興課

# 1 畜産クラスター事業の実施状況

- 農林水産省は、平成27年度から地域の収益力・生産基盤の強化を目的とした畜産クラスター事業を開始。
- 北海道内では、これまでに109の畜産クラスター協議会が設立され、施設整備や機械導入等の取組が進展。
- これまでの実績は、施設整備301件、機械導入11,835件で、総事業費は2,000億円以上と全国一。
- これらの取り組みなどにより、生乳生産量及び乳用牛飼養頭数は増加傾向。

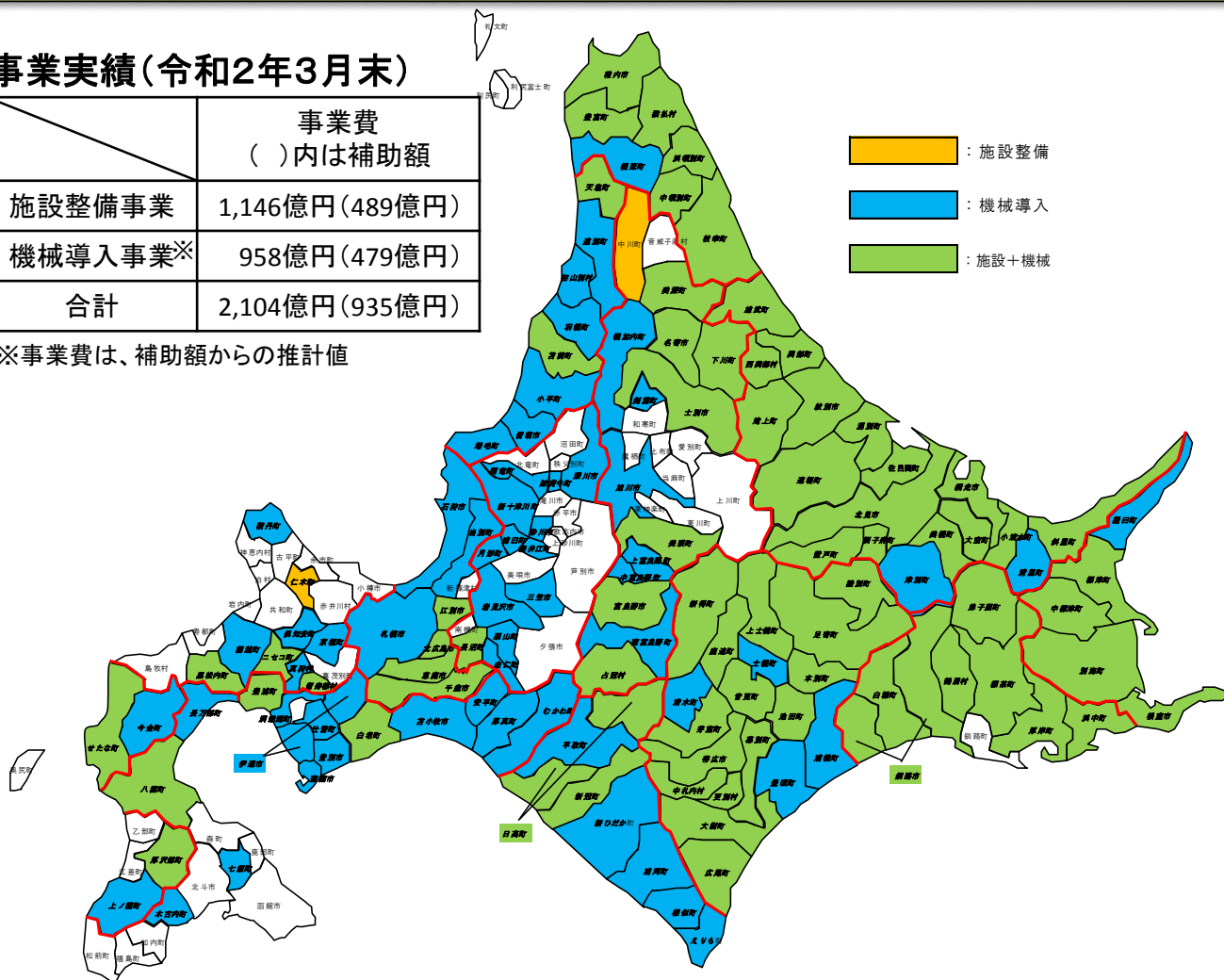
取組件数(令和2年3月末)

協議会数	施設	機械	
全道広域	3	48	2
空知	4	1	103
石狩	2	6	253
後志	3	4	170
胆振	4	2	521
日高	6	5	334
渡島	4	1	167
檜山	6	2	25
上川	7	12	269
留萌	6	7	394
宗谷	7	16	805
オホーツク	20	60	1,813
十勝	23	24	2,476
釧路	8	28	2,085
根室	6	85	2,418
合計	109	301	11,835

事業実績(令和2年3月末)

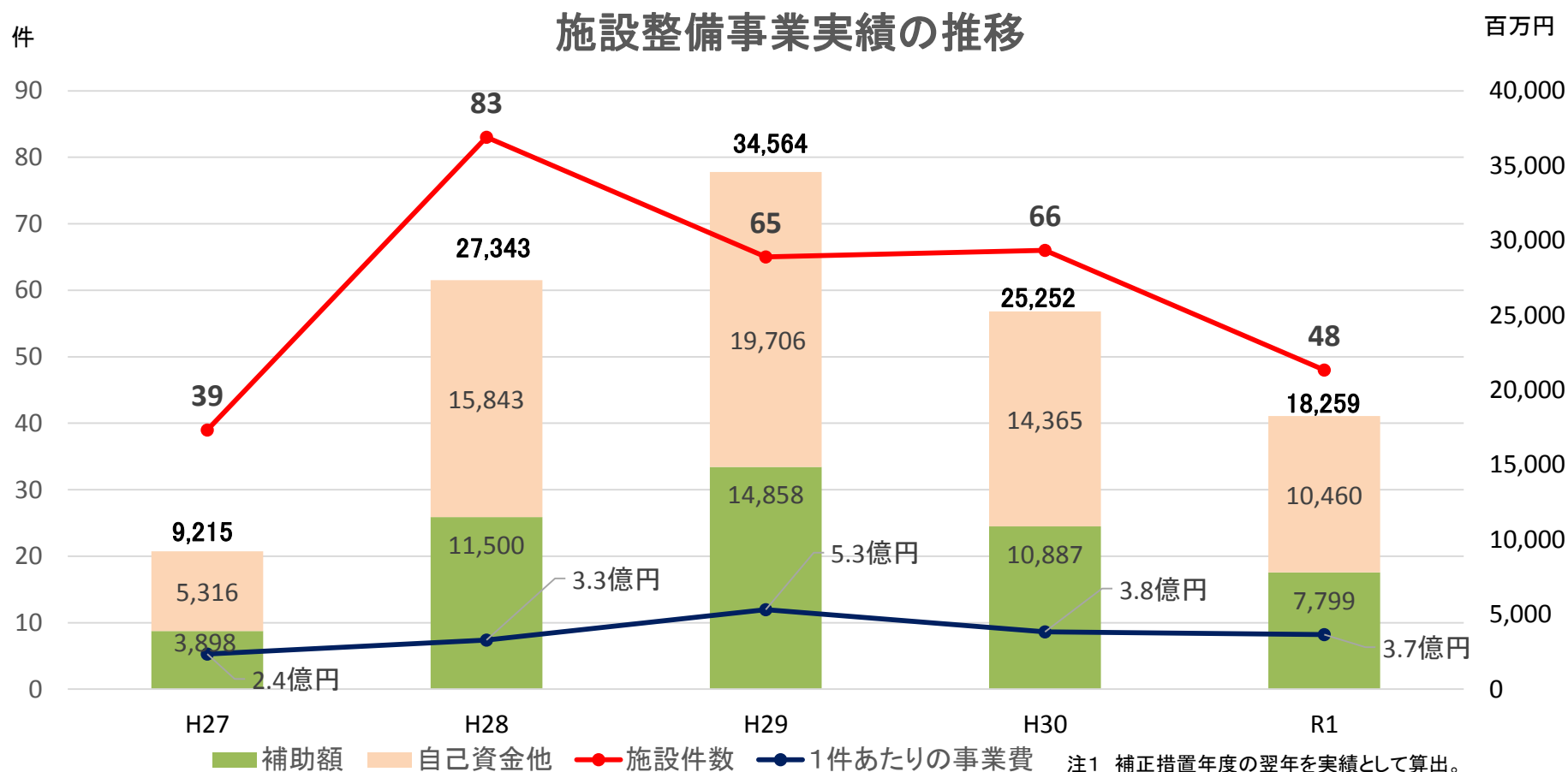
	事業費 ( )内は補助額
施設整備事業	1,146億円(489億円)
機械導入事業※	958億円(479億円)
合計	2,104億円(935億円)

※事業費は、補助額からの推計値



## 2 施設整備事業の実施状況

- 畜産クラスター事業による道内の施設整備の取組は、累計で301件、事業費1,146億円（うち補助額489億円）で全国一の実績。
- 1戸当たりの事業費は3億円程度。

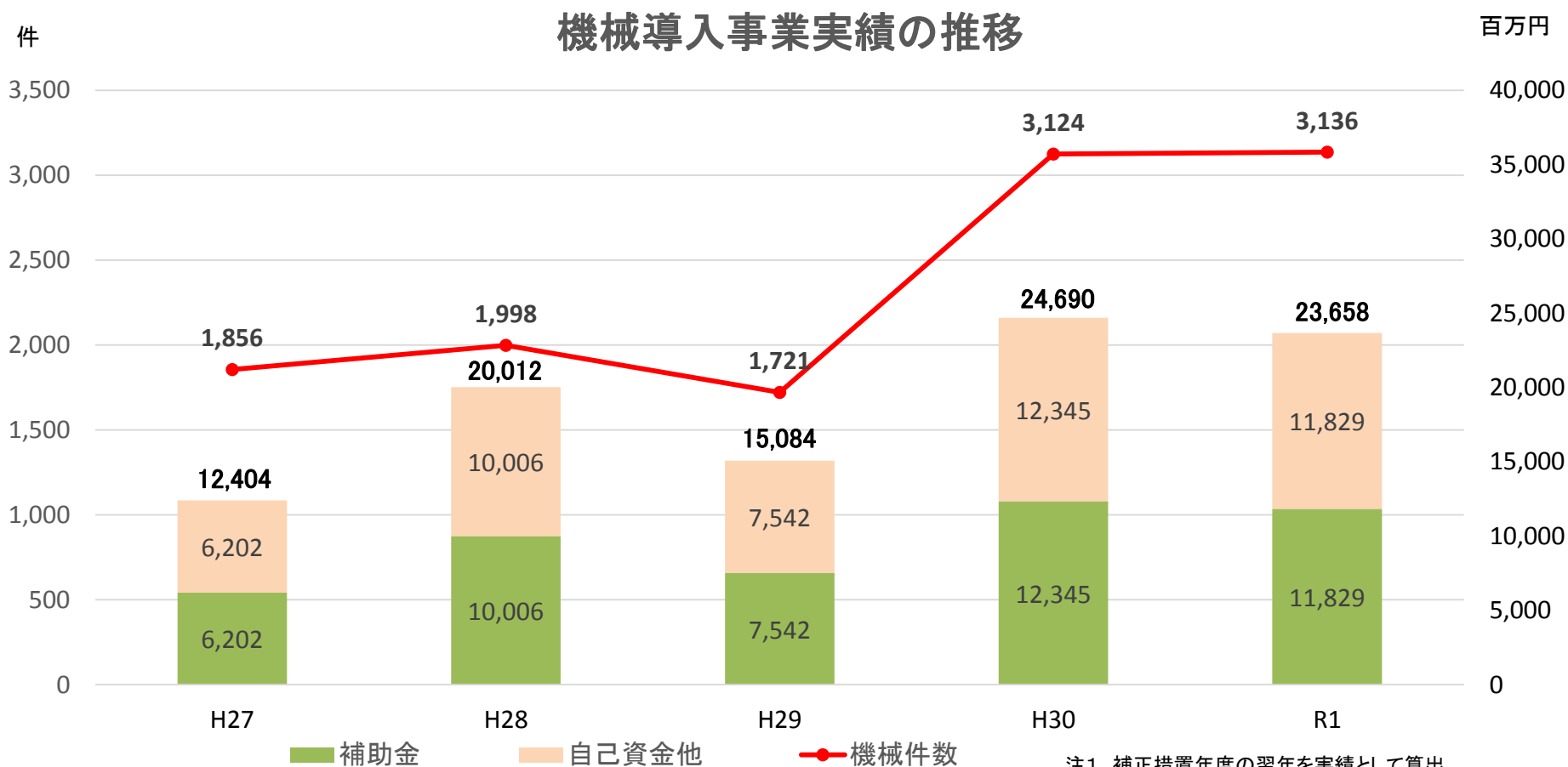


注1 補正措置年度の翌年を実績として算出。

注2 H27年度はH26補正予算及びH27当初予算の合算値

### 3 機械導入事業の実施状況

- 畜産クラスター事業による道内の機械導入の取組みは、累計で11,835件、総事業費958億円(うち補助額479億円)で全国一の実績。
- 飼料生産(肥料散布・耕耘・播種・収穫など)に係る機械が全件数のうち約7割。



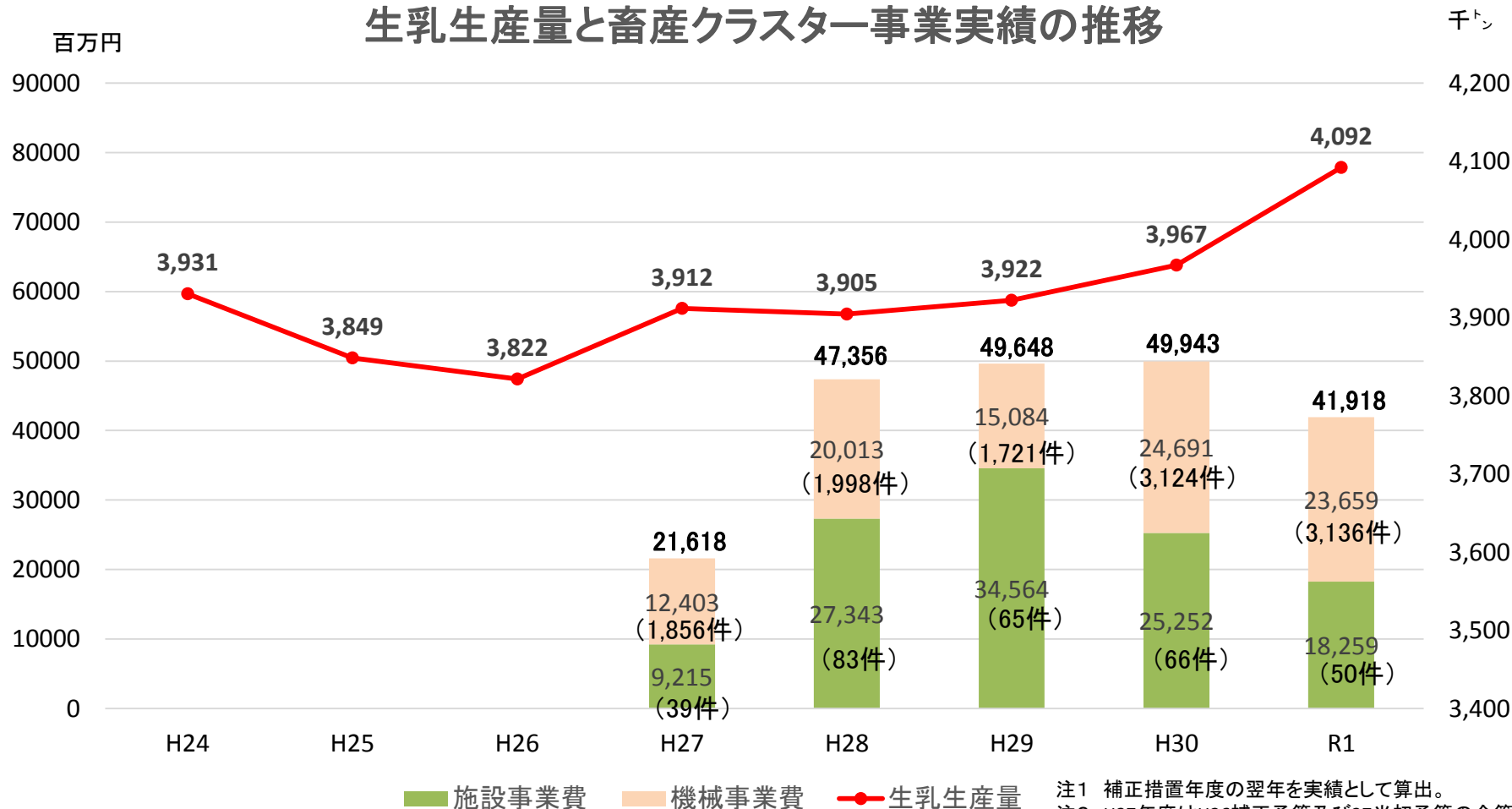
注1 補正措置年度の翌年を実績として算出。

注2 H27年度はH26補正予算及び27当初予算の合算値

## 4 事業実績と生乳生産量の推移

- 北海道の生乳生産量は、平成26年度まで減少傾向で推移していたが、平成27年度以降は増加基調で推移。
- 畜産クラスター事業の効果もあり、令和元年度には初の生乳生産量400万トンを突破。

### 生乳生産量と畜産クラスター事業実績の推移

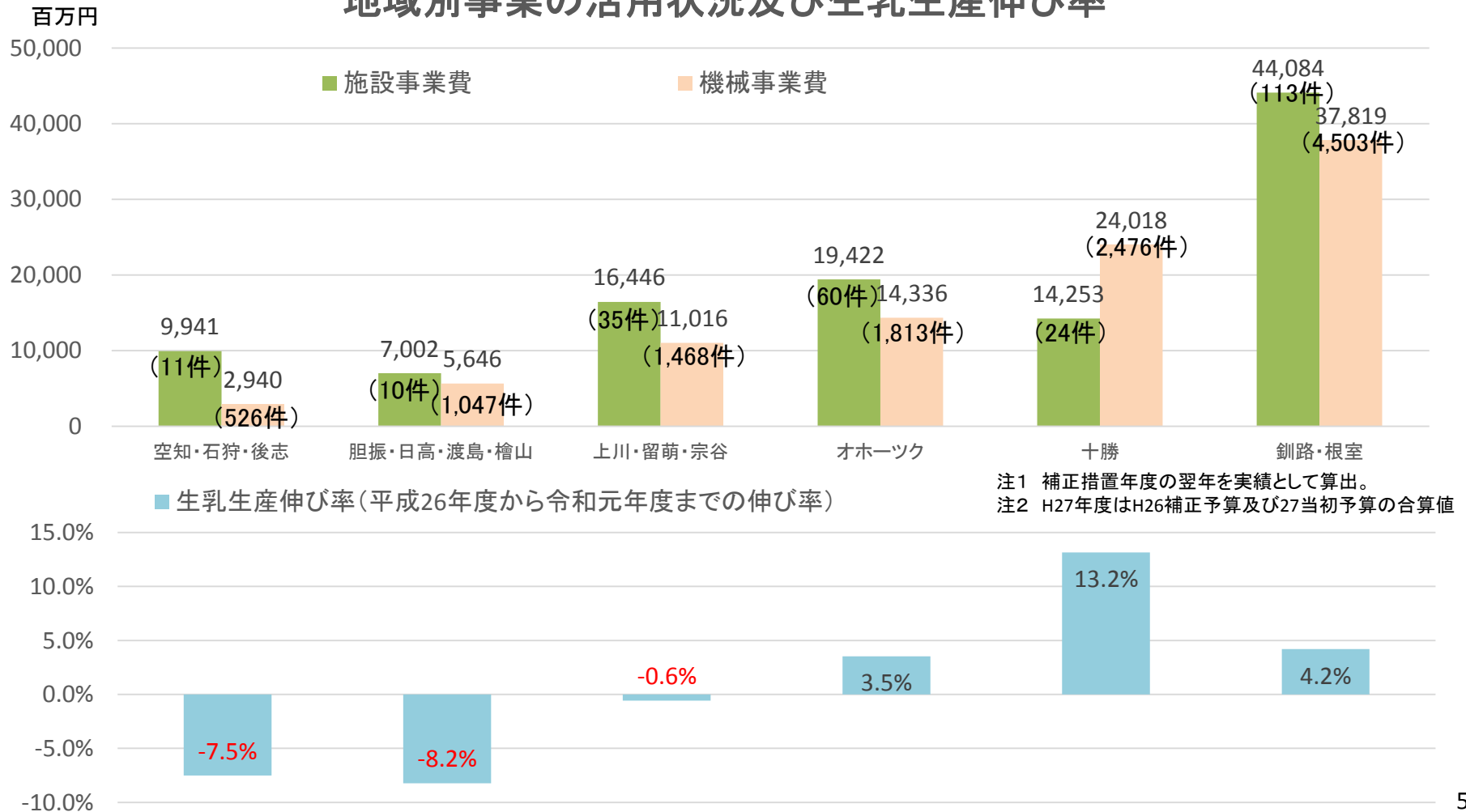


注1 補正措置年度の翌年を実績として算出。  
 注2 H27年度はH26補正予算及び27当初予算の合算値  
 注3 令和元年度は、一部完了していない事業がある。

## 5 地域別取組状況と生乳生産量①

- 畜産クラスター事業の活用実績は全国一であるが、道内の取組状況に地域偏在がある。
- 特に道東(オホーツク、十勝、釧路、根室)における畜産クラスター事業の活用実績が多く、生乳生産量の伸び率が高い。

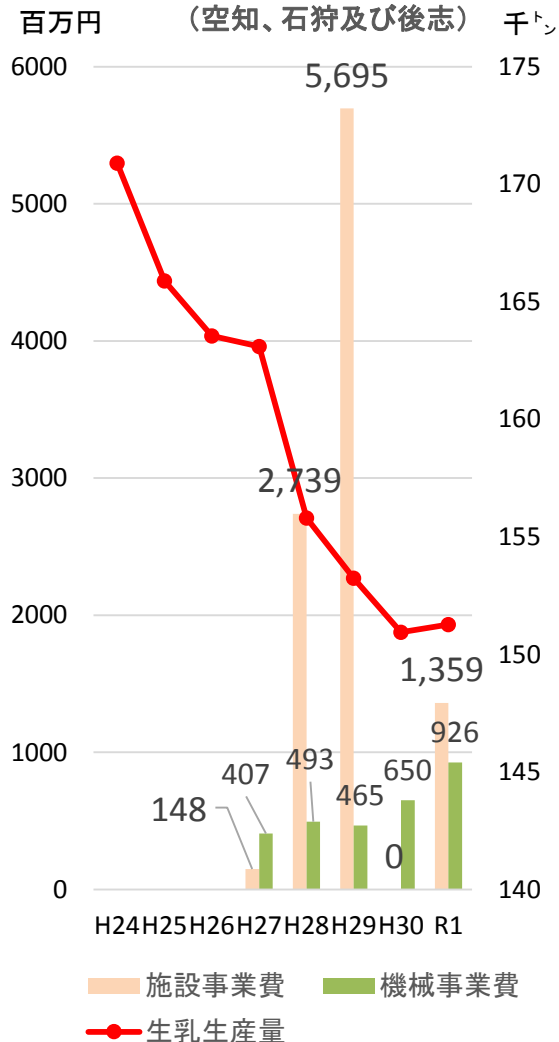
### 地域別事業の活用状況及び生乳生産伸び率



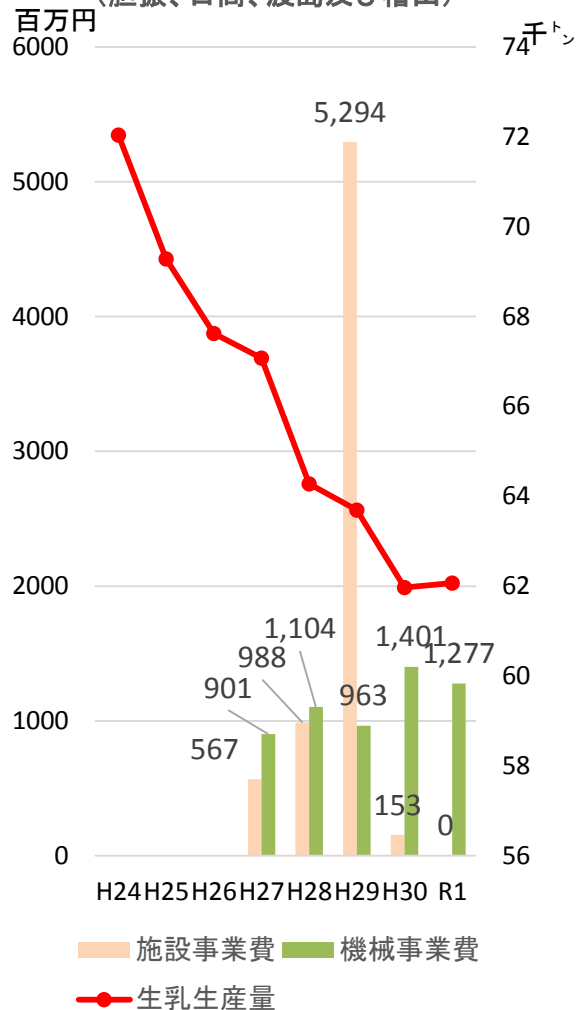
## 6 地域別取組状況と生乳生産量②

- 道南及び道央においては、施設整備の実施は低調であり、生乳生産量も減少傾向。
- 道北においては、毎年施設整備の実施があり、生乳生産量も増加に転じている状況。

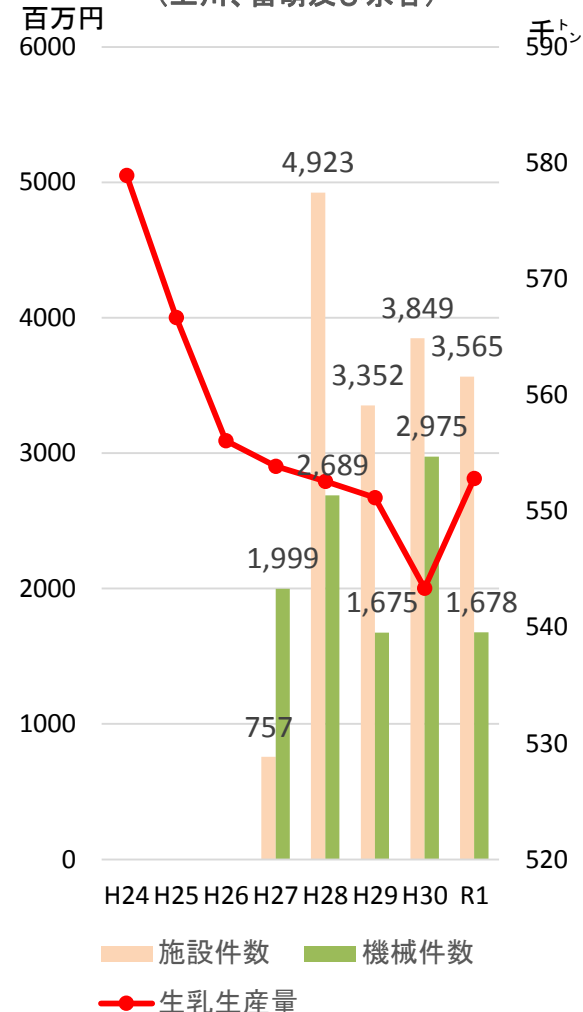
事業実績と生乳生産推移  
(空知、石狩及び後志)



事業実績と生乳生産推移  
(胆振、日高、渡島及び檜山)

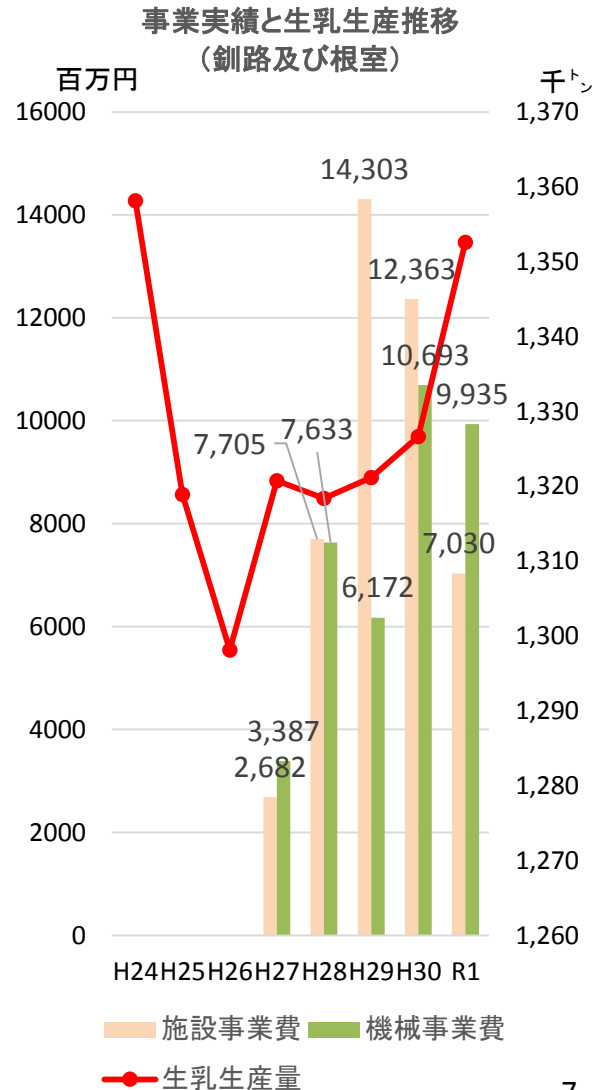
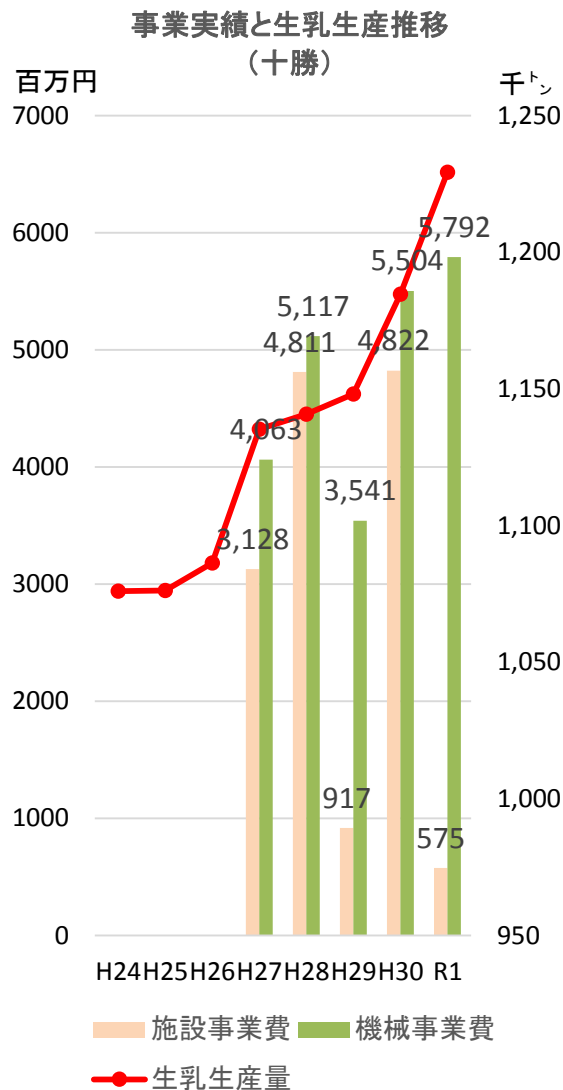
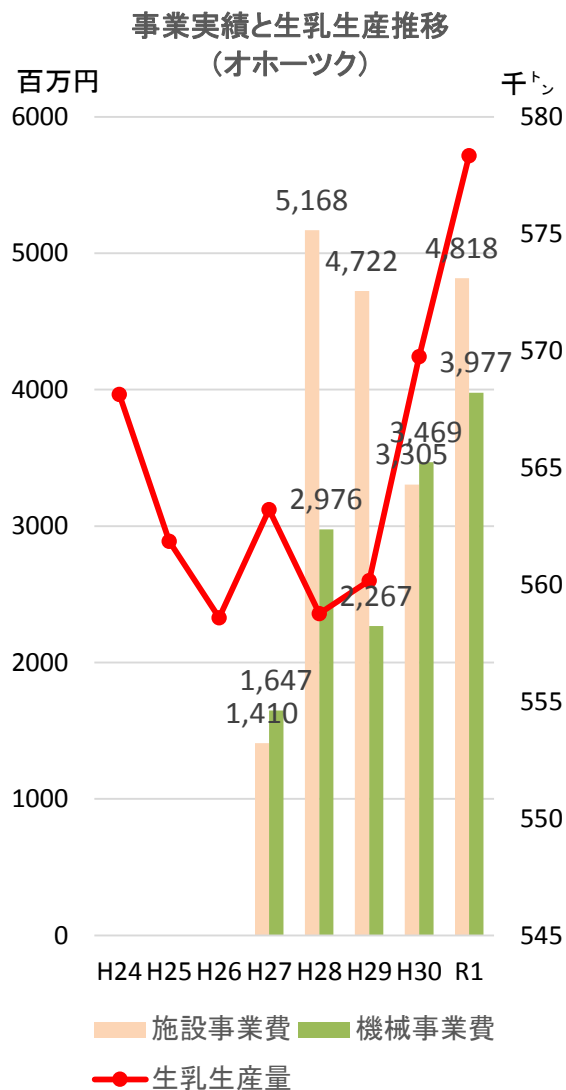


事業実績と生乳生産推移  
(上川、留萌及び宗谷)



# 7 地域別取組状況と生乳生産量③

○ 道東においては、毎年度施設整備を実施しており、それに応じて生乳生産量も増加。





## 8 道内における今後の取組の見込み

○ 今後3カ年(令和2～4年度)の事業の取組要望は施設整備で169件、事業費735億円、機械導入事業で3,763件、事業費389億円であり、安定的な財源確保が必要。

### 地域別の事業要望(令和元年8月調査時点)

